

コロナ禍における児童生徒の心の状態に関する実態調査について ～スクールカウンセラーへの調査結果から～

1 実態調査について

- (1) 調査対象 徳島県スクールカウンセラー（54名）
※徳島県内のすべての公立小中学校及び県立学校に配置しているスクールカウンセラー
- (2) 調査方法 アンケート調査（自由記述あり）
コロナ禍における児童生徒のストレスや不安など、心の状態を把握するため、令和2年4月から8月末までの児童生徒からの相談について、9月にアンケート調査を実施した。

2 調査結果概要

(1) 主な相談項目と相談件数

新型コロナウイルスが関係している相談件数	全体の相談件数	全体の相談件数に占める割合
254件	2,612件	9.7%

○内訳

項 目	新型コロナウイルスが関係している相談件数	項 目	新型コロナウイルスが関係している相談件数
登校への不安	123件 (48.4%)	家庭環境	25件 (9.8%)
心身の健康	48件 (18.9%)	発達障がい	9件 (3.5%)
学習・進路	33件 (13.0%)	その他	16件 (6.3%)
		合 計	254件

(2) 主な相談内容

- 学校の臨時休業が長期化したことにより、生活習慣が乱れ、学校に行きにくい。
- 自分や家族が感染してしまうのではないかと不安になっている。
- SNS（オンラインゲーム）への依存に拍車がかかり、昼夜が逆転した。
- 臨時休業による学習の遅れにより、学習や進学に不安を抱えている。
- 臨時休業により自宅で過ごす時間が増え、家族関係が悪化し、ストレスが増大した。
- 通常と違う学校生活に不安を感じている。
- 友達と会えず、一人でいると不安が大きい。

3 今後の対応

(1) 児童生徒等を対象とするアンケート調査の実施

児童生徒の心の状態をより具体的に把握するため、児童生徒等を対象に、アンケート調査を実施する。

- 調査対象 児童生徒（小6・中1・高1）各800名程度（抽出）
教員120名程度（抽出）

- 調査方法 10月中にアンケートを実施

(2) 教育相談体制のさらなる充実

学校におけるきめ細やかな対応を支援するため、各調査結果を学校と情報共有するとともに、SNSによる相談窓口等の周知を再度徹底する。併せて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携を強化する。